

第1回法務省政策会議議事要旨

○日 時：平成21年10月15日（木）10：30～11：40

○場 所：衆議院第二議員会館第1会議室

○出席者：千葉大臣，加藤副大臣，中村大臣政務官 ほか

○案 件：
・平成21年度補正予算について
・平成22年度概算要求について
・今後の法務省政策会議の進め方について
・その他

1 挨拶

（千葉大臣）

今日は，第1回法務省政策会議にお集まりいただき感謝する。これまで一緒に戦ってきた方に加え，今回の選挙で新たに加わった方々の存在を心強く思うとともに，今後の皆様の活躍を期待している。

鳩山政権の下では，基本的な姿勢として，政治主導ということを申し上げている。やはり選挙で国民の審判を経た政治家が政策決定・行政運営を行い，責任を果たすことが基本である。そこで，私が先頭に立ち，皆様の様々な意見をお聞きして，一番大切な国民の皆様の目線・立場で考えることを肝に銘じながら頑張っていきたい。

政治主導の下，私と副大臣と政務官との3名で政務三役会議を開き，皆様の意見を踏まえながら政策決定をしっかりとさせていただく。副大臣が主催する法務省政策会議において，皆様から様々ご意見をいただきながら，法務行政の執行に努めて参りたい。

私の使命は，まずはマニフェストの内容を推進することである。マニフェストの三本柱を基礎におきながら，国民一人一人が安心できる生活の実現に向けて，施策の推進に力を注ぎたい。

各議員が国民の皆様の声を吸い取って提言することなしでは，鳩山政権は前に進めない。そういった意味では，皆様に意見・提言等について，協力をお願いしたい。微力ではあるが，皆様の思いを受けて，しっかり仕事をさせていただくことを約束する。

(加藤副大臣)

今回は、多くの先生方にご参加いただきうれしく思う。改めて政権交代を実感するところである。法務省の就任あいさつでも申し上げたが、政権が変わったのは、過去の全否定ではなく、未来へ向けての進化である。

法務行政は地味なところはあるが、多くの課題を抱えている。皆様には色々なご意見をいただきたい。私も誠心誠意努力し、政策会議でいただいた意見を大臣に伝え、政務三役会議に諮ってまいりたい。

(中村大臣政務官)

私が初当選時は、新人議員は43人しかいなかったが、今回は143人も新人議員がいる。各議員がそれぞれ個別に勉強することはなかなか難しいと思うので、できるだけ折に触れて色々なことを伝えていきたいと思う。

こういうことを伝えて欲しいということがあれば、是非言って欲しい。

2 案件

加藤副大臣から別添資料に沿って説明

3 出席議員からの主な発言

- ・ 矯正医療に関し、被収容者に対して求められる治療について、方針や基準を明確化すれば経費節減につながるのではないか。
- ・ 最高裁判所の予算等についてもこの場で議論すべきではないか。
- ・ 法務省の予算は、固定的・他動的な経費だけで占められるわけではない。必要な所には、思い切って要員を増やしていくべきではないか。
- ・ 法テラスの法律扶助の予算については、セーフティネットの観点から力を入れていくべき。法テラスに難民相談窓口を創設すべきではないか。
- ・ 出入国管理体制の充実強化とあるが、今後、どのような点を充実強化していくという意味なのか。
- ・ 登記特別会計については、特別会計の廃止を待たず、聖域のない見直しをすべきではないか。
- ・ 政務三役が全国にある施設を視察する際は、自ら選定して施設に行くべき。我々も、地元にある施設を視察し、その情報を集約して様々な議論を進めていくべきではないか。
- ・ 人権救済機関の設置と取調べの可視化については、どのような時間的目標をもって取り組む予定なのか。

- 人件費についても何かを切り込んで節減できるのではないか。
- 人件費のうち、残業代について精査すべきではないか。
- 取調べの可視化の勉強会で出た論点や課題について、情報共有していただきたい。
- 登記簿謄本の手数料額について見直すべきではないか。
- 公用申請を無償で行っていることについて、どのように考えているのか。
- 政務三役会議で政策を決定する前に、政策会議で議論するシステムにすべきではないか。閉会中であっても、政策会議は定例で行うべきではないか。
- 政策決定のプロセスはどうなっているのか。どの時期にどのように決まるのか、情報を提供して欲しい。我々が問題提起をして要求すれば、勉強会を開いてくれるのか。
- 予算関連以外のテーマについても、議論の場を作るようなシステムを構築すべきではないか。

以 上